

酒吞童子山地域の自然林

あかし
原植生の証として



モミ・ツガ群落

大部分が植林地に変えられていますが、地形的に急峻なところでは、西南日本特有のモミやツガの針葉樹がシキミやハイノキをともなった自然林として残り、原植生の証となっています。

ケヤキ群落

かつて植栽されたところもありますが、今は自然状態に戻り、初夏の新緑と秋の紅葉は鮮やかで、谷の植生を特徴づけています。

津江地方では古くから植林が広く行われ、かつて環境と調和しながら成熟し山をおおっていた自然林は、人の手によって植え込まれたスギ林に変わってしまいました。しかし、尾根や急峻ながけ、一部の溪谷にはその地にもともと育ってきたふるさとの森の証として、自然林がわずかながら残っています。そこではそれぞれの植物が勝手気ままに生育しているように見えますが、よく見ると高く伸びて存分に枝を広げた樹木、林内の下の方でひっそりと生きのびている木々、あるいはそれらの樹木と共に生命を営む草花というように、自然の秩序を見ることができます。そこには厳粛な自然界の掟に従って調和のとれた美しさが存在し、自然林はふるさとの森として生きながらえているのです。

ブナ群落

酒呑童子山の稜線にはブナの林が続き、ブナの高木の下にはスズダケがうっそうと茂っています。岩場ではスズダケに代わってツクンシャクナゲが群生しているところもあります。

カツラ群落

林床にコチャルメルソウを伴っていて溪谷を代表する植生のひとつです。

サウグルミ群落

比較的高度の高い溪谷にみられ、林床にはオオマルバノテンニンソウが生育しています。